

国立大学法人 三重大学

大学院 生物資源学研究科

Graduate School of Bioresources

生物資源学部

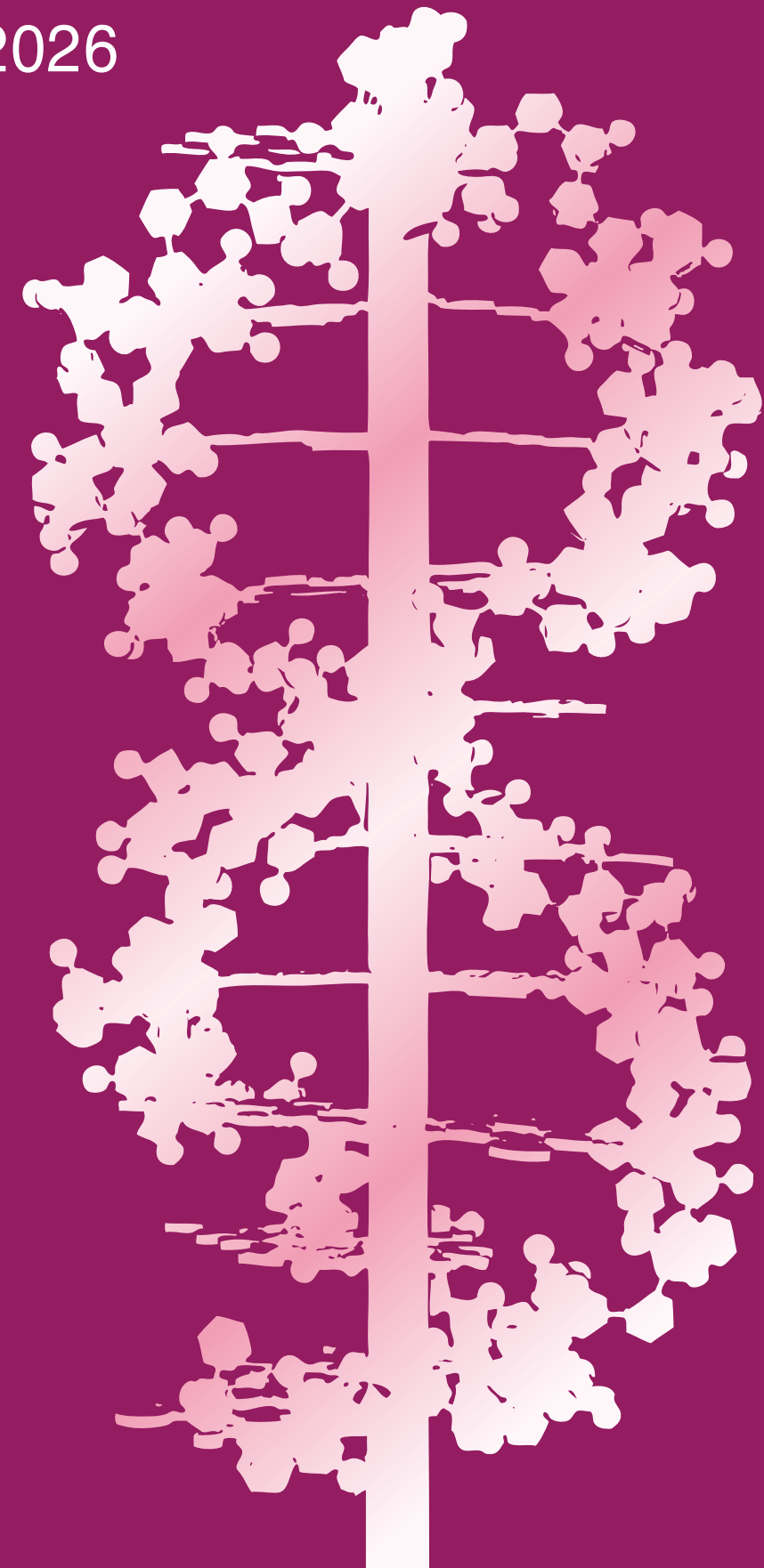
Faculty of Bioresources

2025-2026

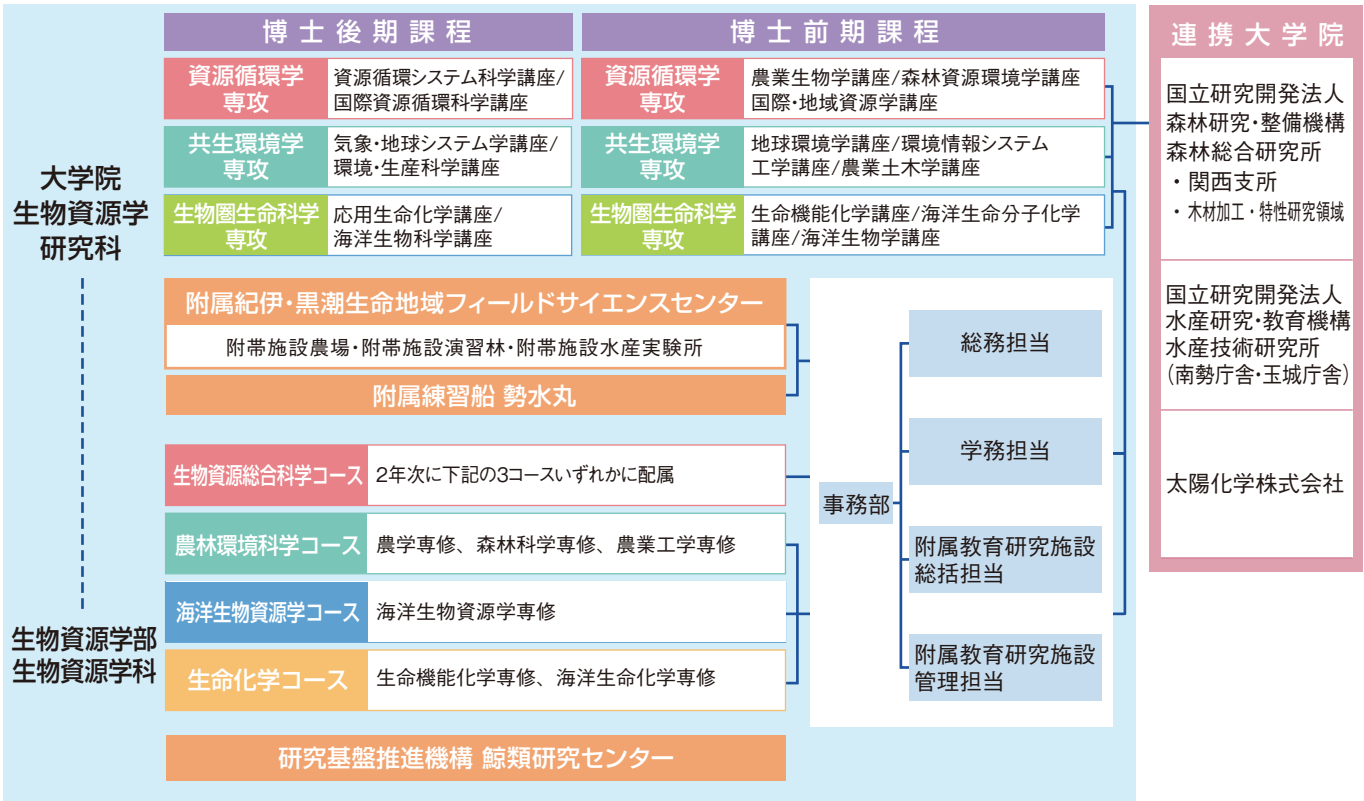


国立大学法人 三重大学
大学院 生物資源学研究科
生物資源学部

〒514-8507
三重県津市栗真町屋町1577
TEL.059-231-9626
FAX.059-231-9634
www.bio.mie-u.ac.jp
2025年9月発行



1 機構



2 専攻・学部概要

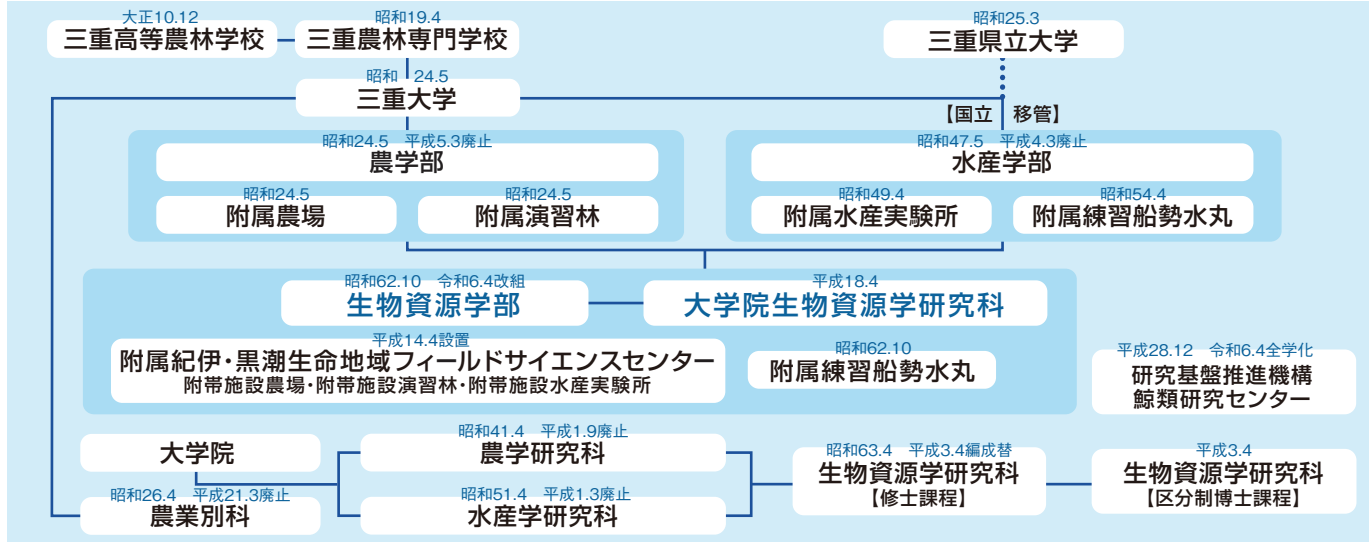
大学院生物資源学研究科

資源循環学専攻	持続的な社会の基盤としての生物資源を環境に配慮した方法で循環的に利用するための、技術の開発や新しい社会のデザインをすることができる人材を育成することにより、調和のとれた循環型社会の構築に貢献することを目指している。このため、本専攻では、生物の生命の仕組み、それらの生物を取り巻く環境、生物多様性についての学問を通して、生物資源の持続的利用に関する教育・研究を行う。
共生環境学専攻	本専攻では、地球とそれが育む多様な生態系からなる地球生命圏の環境を理解し、人間活動と生態系が調和する持続的な生物生産システムの構築を目指し、陸圏・海洋圏・大気圏が複雑に連動する地球生態システムを対象に、気象学・環境科学・生態科学などに根ざした農学・理学・工学を包含した総合科学的手法のための環境工学や農業工学などの応用学問に根ざした教育・研究を行う。また、この複雑なシステムを数理的に読み解くことで環境変化や気候変動の仕組みを理解し、連動する人類と人間社会の諸課題に応えるために、フィールドワークを援用しながら最先端の教育・研究を行う。
生物圏生命科学専攻	生命科学全般に関する基礎的学理及び海洋の資源生物の育成・保全・管理に関わる学問を構築し、実践的教育を通じてそれを学生に修得させることを目指している。このため、本専攻では、個々の学生が資源生物の生命現象に関する基礎理論を生態系、群集、個体群、個体、器官、細胞、分子レベルで理解するとともに、生物科学の研究に必要な研究技法を修得するための教育・研究を行う。

生物資源学部 生物資源学科

生物資源総合科学コース	生物資源総合科学コースでは1年次に、農林環境科学概論、海洋生物学、応用生命化学概論、フードシステムチュートリアル等の科目を学び、生物資源学の幅広い知識や俯瞰的視野、地域を先導する力に関する基礎的素養を身につけます。 2年生からは下記の3コースのいずれかに配属されるため、志望分野を入学後には検討したい学生に最適な選択の可能性を提供します。
農林環境科学コース	農学専修では、生命農学と社会科学の視点からフードシステムを理解し、食料問題の解決や豊かな環境維持の方策と技術を身につけます。森林科学専修では、森林生態系の自然環境や生物多様性を学び、地球温暖化の抑止や脱炭素社会を実現する森林資源の持続的な利用に必要な技術を身につけます。農業工学専修では、農村空間や環境の保全修復、食料生産、資源循環、資源有効利用に関わる基礎理論を学び、それらのスマート化に必要な技術を身につけます。
海洋生物資源学コース	プランクトンから魚介類・鯨類、藻類などにいたる多様な水生生物について、遺伝子レベルから生態系レベルまでの基礎を学ぶとともに、それらを増やし育てる技術、保全、資源としての持続的利用や流通の方法を学びます。また、海洋環境やそれに密接にかかわる気候変動・異常気象なども対象とし、海洋における生物と環境との関係を理解し、多様な視点から海洋生物資源について総合的に学びます。
生命化学コース	生命化学コースでは、多様な生物の代謝・物質・機能を解析することを通して生命化学の分野における幅広い知識と応用力を有する人材を育成することにより、人類の健康増進および農林水産業の発展に貢献することを目指しています。生命化学コースでは2年次前期までに専門基礎科目を学び、2年次後期から生命機能化学専修または海洋生命化学専修に分かれ、専修専門科目や卒業研究に必要な研究手法の学理と技術について学びます。

3 沿革



4 役職員

令和7年7月1日現在

役 員	氏 名	任 期
研究科長〈兼務〉	橋本 篤	2025.4.1～2027.3.31
副研究科長〈教育担当〉〈兼務〉	塚田 森生	2025.4.1～2027.3.31
副研究科長〈研究担当〉〈兼務〉	松田 陽介	2025.4.1～2027.3.31
研究科長補佐〈研究担当〉〈兼務〉	松田 浩一	2025.4.1～2027.3.31
研究科長補佐〈広報担当〉〈兼務〉	倉島 彰	2025.4.1～2027.3.31
研究科長補佐〈教育・学生担当〉〈兼務〉	名田 和義	2025.4.1～2027.3.31
研究科長補佐〈国際交流〉〈兼務〉	中島 千晴	2025.4.1～2027.3.31
評議員〈兼務〉	木村 哲哉	2025.4.1～2026.3.31
資源循環学専攻長〈資源循環学科長〉〈兼務〉	中井 毅尚	2025.4.1～2026.3.31
共生環境学専攻長〈共生環境学科長〉〈兼務〉	福島 崇志	2025.4.1～2026.3.31
生物圏生命科学専攻長〈兼務〉	福岡 智司	2025.4.1～2026.3.31
生物圏生命化学科長〈兼務〉	竹林慎一郎	2025.4.1～2026.3.31
海洋生物資源学科長〈兼務〉	森阪 匡通	2025.4.1～2026.3.31
生物資源総合科学コース長〈兼務〉	福島 崇志	2025.4.1～2026.3.31
農林環境科学コース長〈兼務〉	中井 毅尚	2025.4.1～2026.3.31
海洋生物資源学コース長〈兼務〉	森阪 匡通	2025.4.1～2026.3.31
生命化学コース長〈兼務〉	竹林慎一郎	2025.4.1～2026.3.31
附属紀伊・黒潮生命地域フィールドサイエンスセンター長〈兼務〉	渡辺 晋生	2025.4.1～2026.3.31
附帯施設農場長〈兼務〉	名田 和義	2024.4.1～2026.3.31
附帯施設演習林長〈兼務〉	木佐貫博光	2024.4.1～2026.3.31
附帯施設水産実験所長〈兼務〉	松田 浩一	2024.4.1～2026.3.31
附属練習船勢水丸船長〈兼務〉	中村 亨	2024.4.1～2026.3.31
生物資源学研究科チーム事務長	谷 仁	2024.4.1～
附属教育研究施設事務室長	山下 城	2023.7.1～
研究基盤推進機構鯨類研究センター長〈兼務〉	橋本 篤	2025.4.1～2027.3.31

6 専攻組織

大学院生物資源学研究科 博士後期課程

令和7年4月1日現在

専攻	講座	教育研究分野
資源循環学	資源循環システム科学	食料生産科学、森林資源環境学
	国際資源循環科学	国際資源循環科学
共生環境学	気象・地球システム学	大気海洋地球学、流域環境創成学、地球環境解析学
	環境・生産科学	環境情報システム工学、地域保全工学、生態系循環システム学
生物圏生命科学	応用生命化学	生命機能化学、海洋生命分子化学
	海洋生物科学	海洋生物学

資源循環学専攻

講座 [大講座]	教育研究分野	職名／氏名
農業生物学	分子遺伝育種学	教 授 掛 田 克 行 [教 授 諏訪部 圭 太]*
	資 源 作 物 学	教 授 長 菅 輝 義 准教授 長 屋 祐 一
	園芸植物機能学	教 授 奥 田 均 教 授 名 田 和 義 准教授 村 上 覚
	動 物 生 産 学	教 授 松 井 宏 樹 准教授 伴 智 美
	草地・飼料生産学	准教授 近 藤 誠
	植 物 医 科 学	教 授 中 島 千 晴 准教授 白 水 貴
	昆 虫 生 態 学	教 授 塚 田 森 生 准教授 鈴 木 紀 之
	森 林 保 全 生 態 学	教 授 木佐貫 博 光 准教授 鳥 丸 猛 准教授 鶴 田 健 二
森 林 資 源 学	森 林 微 生 物 学	教 授 松 田 陽 介 助 教 北 上 雄 大
	土壌圏生物機能学	准教授 水 野 隆 文
	森 林 総 合 環 境 学	准教授 淵 上 佑 樹
	緑 環 境 計 画 学	准教授 松 尾 奈緒子
	森 林 環 境 砂 防 学	准教授 沼 本 晋 也
	森 林 利 用 学	教 授 板 谷 明 美 助 教 渡 部 優
	木 質 資 源 工 学	教 授 中 井 毅 尚 助 教 内 迫 貴 幸
	木質分子素材制御学	教 授 野 中 寛 助 教 徳 永 有 希
国 際 ・ 地 域 資 源 学	循 環 経 営 社 会 学	[教 授 野 中 章 久]*
	資源経済システム学	教 授 常 清 秀
	国 際 資 源 植 物 学	教 授 関 谷 信 人
	国 際 資 源 利 用 学	准教授 吉 原 佑

*大学院は地域イノベーション学研究科所属

共生環境学専攻

講座 [大講座]	教育研究分野	職名／氏名
地球環境学	気象・気候ダイナミクス	教 授 立 花 義 裕 助 教 小川 史明
	気象解析予測学	准教授 西 井 和 晃
	海 洋 気 候 学	准教授 山 田 二久次
	未来海洋予測学	准教授 万 田 敦 昌
	地球システム進化学	教 授 坂 本 竜 彦
	水環境・自然災害科学	教 授 葛 葉 泰 久
環 境 情 報 システム工学	応用環境情報学	教 授 福 島 崇 志 准教授 滝 沢 憲 治
	生産環境システム学	准教授 鈴 木 哲 仁
	エネルギー利用工学	教 授 王 秀 崙 助 教 呉 婷 婷
	フードシステム学	教 授 森 尾 吉 成 助 教 内 藤 啓 貴
農 業 土 木 学	農 村 計 画 学	准教授 森 本 英 嗣
	土 資 源 工 学	教 授 保世院 座狩屋 助 教 田 中 宣 多
	水 資 源 工 学	准教授 近 藤 雅 秋 [准教授 伊 藤 良 栄]**
	水 利 施 設 工 学	教 授 岡 島 賢 治 助 教 長 岡 誠 也
	土 壌 圏 シ ス テ ム 学	教 授 渡 辺 晋 生
	土 壌 圏 循 環 学	教 授 取 出 伸 夫 准教授 坂 井 勝

**学部は全学共通教育センター所属

生物圏生命科学専攻

講座 [大講座]	教育研究分野	職名／氏名
生命機能化学	分子細胞生物学	教 授 竹 林 慎一郎 助 教 POONPERM RAWIN
	分子生物情報学	教 授 末 原 憲一郎 准教授 三 宅 英 雄
	生 理 活 性 化 学	教 授 稲 垣 穰
	創 薬 化 学	准教授 増 田 裕 一
	生 物 機 能 化 学	准教授 勝 崎 裕 隆 准教授 岡 咲 洋 三
	生物制御生化学	教 授 寺 西 克 倫
	食品生物情報工学	教 授 橋 本 篤
	食 品 化 学	教 授 磯 野 直 人 准教授 三 島 隆
	微 生 物 遺 伝 学	教 授 木 村 哲 哉 准教授 國 武 絵 美
	栄 養 化 学	准教授 西 尾 昌 洋 助 教 栗 谷 健 志
	食 品 発 酵 学	准教授 梅 川 碧 里
	海 洋 生 物 化 学	教 授 柿 沼 誠 助 教 五十嵐 洋 治
海 洋 生 命 分 子 化 学	水圏材料分子化学	准教授 伊 藤 智 広
	生 物 物 性 学	[教 授 大 井 淳 史]**
	生体高分子化学	教 授 船 原 大 輔 助 教 水 谷 雪 乃
	海 洋 微 生 物 学	教 授 田 中 礼 士
	水産物品質学	教 授 福 崎 智 司 准教授 岡 崎 文 美
	海 洋 食 糧 化 学	[教 授 柴 田 敏 行]***
	生 物 海 洋 学	教 授 石 川 輝 助 教 ラム ワイマン
	水 族 生 理 学	准教授 宮 崎 多恵子
海 洋 生 物 学	藻 類 学	教 授 倉 島 彰 助 教 渡 邊 裕 基
	浅 海 増 殖 学	教 授 松 田 浩 一 教 授 筒 井 直 昭 助 教 山 本 康 介
	先端養殖管理学	教 授 一 色 正 准教授 北 村 真 一
	魚 類 増 殖 学	教 授 淀 太 我
	海 洋 生 態 学	教 授 木 村 妙 子
	水圏資源生物学	助 教 伯 耆 匠 二
	水圏分子生態学	教 授 河 村 功 一
	海洋個体群動態学	准教授 金 岩 稔
	応 用 行 動 学	准教授 森 川 由 隆
	水産応用情報学	准教授 岡 辺 拓 巳
	鯨 類 学	教 授 森 阪 匡 通 准教授 船 坂 徳 子 助 教 八 木 原 風

特任教員

特任教授 栗 冠 和 郎 特任教授 陳 山 鵬 特任教授 古 丸 明 特任教授 Jagath Siri Kularatne 特任教授 奥 村 克 純 特任教授 酒 井 俊 典 特任准教授 Thalagala Arachchige Tharanga Piyamali Thalagara

研究助教

研究助教 齊 藤 勇 人 CAI ZIYI

附属教育研究施設

	職名／氏名
附属紀伊・黒潮生命地域フィールドサイエンスセンター	教 授 長 菅 輝 義 教 授 奥 田 均 准教授 三 島 隆
	准教授 沼 本 晋 也 准教授 鶴 田 健 二
	教 授 松 田 浩 一 准教授 岡 辺 拓 巳 助 教 山 本 康 介
附属練習船勢水丸	准教授 (船 長) 中 村 亨 助 教 (一等航海士兼通信長) 奥 村 順 哉

研究基盤推進機構

鯨類研究センター	教 授 橋 本 篤 教 授 森 阪 匡 通 准教授 船 坂 徳 子 助 教 八 木 原 風
----------	---

連携大学院

令和7年4月1日

資源循環学専攻

講座 [大講座]	連携機関	教育研究分野	職名／氏名
森林資源環境学	森 林 総 合 研 究 所 関 西 支 所	自 然 共 生 学	連携教授 神崎 菜摘 連携准教授 波壁 卓磨
	森 林 総 合 研 究 所 木 材 加 工 ・ 特 性 研 究 領 域	木 質 資 源 工 学	連携准教授 杉山 真樹・鳥羽 景介

生物圏生命科学専攻

生命機能化学	太陽化学株式会社	食 品 機 能 学	連携教授 小関 誠 連携准教授 安部 綾・小林 純也
海洋生物学	水産研究・教育機構水産技術研究所	発 生 ・ 代 謝 機 能 解 析 学	連携教授 藤原 篤志 連携准教授 村下 幸司・山口 寿哉

7 学生数【定員・現員】

令和7年5月1日現在

学 部 等		1 年				2 年				3 年				4 年				計					
		定員	現 員			定員	現 員			定員	現 員			定員	現 員			定員	現 員				
			男	女	計		男	女	計		男	女	計		男	女	計		男	女	計		
生物資源学	生物資源総合科学コース		16	13	29																		
	農業環境科学コース		67	48	115		78	57	135												145	105	250
	海洋生物資源学コース		30	17	47		40	14	54												70	31	101
	生命科学コース		39	41	80		29	55	84												68	96	164
	計	260	152	119	271	260	147	126	273									520	299	245	544		
生物資源学	資源循環学科									73 (3)	35	39	74	73 (3)	45	40	85	146	80	79	159		
	共生環境学科									73 (3)	44	28	72	73 (3)	54	28	82	146	98	56	154		
	生物圏生命化学科									82 (2)	40	42	82	82 (2)	35	56	91	164	75	98	173		
	海洋生物資源学科									42 (2)	27	16	43	42 (2)	35	13	48	84	62	29	91		
	計										270	146	125	271	270	169	137	306	540	315	262	577	
大学院 生物資源学 研究科	博士前期課程	88	82	42	124	88	69	39	108									176	151	81	232		
	博士後期課程	12	13	8	21	12	5	9	14	12	15	7	22					36	33	24	57		

() 内は、3年次編入学定員を内数で示す。

8 卒業・修了者数

令和7年3月31日現在

区 分	学 部 等	期間（年度）	卒業・修了者（名）
専門学校（旧制）	三重高等農林学校	1924～1942	1,931
	三重農林専門学校	1944～1951	1,627
大 学（新制）	三重大学農学部	1952～1992	6,978
	三重県立大学水産学部	1953～1974	995
	三重大学水産学部	1975～1992	944
	三重大学生物資源学部	1991～2024	9,175
大学院	大学院農学研究科（修士課程）	1967～1988	378
	大学院水産学研究科（修士課程）	1977～1988	107
	大学院生物資源学研究科（修士課程）	1989～1992	152
	博士前期課程	1992～2024	3,126
	博士後期課程	1993～2024	472（課程365、論博107）
別 科	農業別科	1951～2008	609

9 卒業・修了後の進路状況（令和6年度）

令和7年5月1日現在

学 部	学科等	卒業者	就 職				進学者	その他	就職先	
			企 業	官公庁	教 員	その他			県 内	県 外
生物資源学部	資源循環学科	76 (32)	35 (18)	10 (4)	0 (0)	0 (0)	30 (10)	1 (0)	9 (3)	36 (19)
	共生環境学科	73 (18)	23 (7)	19 (3)	0 (0)	0 (0)	27 (7)	4 (1)	7 (2)	35 (8)
	生物圏生命化学科	83 (50)	29 (21)	4 (3)	0 (0)	0 (0)	48 (24)	2 (2)	7 (4)	26 (20)
	海洋生物資源学科	38 (14)	8 (6)	5 (3)	0 (0)	1 (0)	22 (5)	2 (0)	0 (0)	14 (9)
計		270 (114)	95 (52)	38 (13)	0 (0)	1 (0)	127 (46)	9 (3)	23 (9)	111 (56)
大学院生物資源学研究科	博士前期課程	109 (45)	80 (36)	9 (2)	3 (1)	1 (0)	10 (3)	6 (3)	14 (8)	79 (31)
	博士後期課程	10 (2)	4 (1)	1 (0)	1 (0)	2 (1)	0 (0)	2 (0)	4 (1)	4 (1)
計		119 (47)	84 (37)	10 (2)	4 (1)	3 (1)	10 (3)	8 (3)	18 (9)	83 (32)

() 内は、女子学生数を内数で示す。

10 留学生数

令和7年5月1日現在

区 分		中国	インドネシア	フィリピン	マレーシア	バングラデシュ	エジプト	韓国	その他※1	計
生物資源学	1年									0
	2年							1		1
	3年									0
	4年									0
	研究生								1	1
大学院生物資源学研究科	特別聴講学生									0
	1年		5			1		1		7
	2年	3							1	4
	研究生								1	1
	特別研究学生									0
	特別聴講学生									0
	1年	3	1	2	1	2	1		1	11
	2年	2		1	2	1				6
	3年	2	1	2	1		2		2	10
	研究生									0
	特別研究学生	1						1		2
計		11	7	5	4	4	3	3	6	43

※1 イギリス、ケニア、コンゴ、シリア、タンザニア、ベトナム

11 奨学生数（日本学生支援機構）

令和7年3月31日現在

区 分		1年	2年	3年	4年	1年		2年		3年		4年		計		
		給付	給付	給付	給付	一種	二種	一種	二種	一種	二種	一種	二種	給付	一種	二種
生物資源学部		23	273	25	23	29	23	36	29	34	28	39	21	98	138	101
大学院生物資源学研究科	博士前期					39	2	28	0						67	2
	博士後期					2	0	1	1	0	1				3	2

12 生物資源学部奨学金制度

渡邊文二奨学金

平成16年度に畜産物の飼育や加工、販売、飼料研究などを手掛ける「三昌物産株式会社」創設者である故渡邊文二氏からの寄付金を基に設立された、三重大学としては初めての独自奨学金制度です。本奨学金制度の特徴として返還の必要がなく、2年間にわたり給付されます。また、他の奨学団体から給付を受けている場合（応募している場合）でも応募できます。

給付年額	480,000円
給付期間	2年間
対 象	学部3年次の学生で経済的理由により、就学が困難である者 将来、三重県内で畜産、食品、水産および農業の事業に携わる見込みがある者
給付人数	2人
募集時期	4月初旬～末

朝日土木株式会社奨学金

平成26年度に総合建設業、建設副産物のリサイクル事業などを手掛ける「朝日土木株式会社」からの寄付金を基に設立された、独自奨学金制度です。本奨学金制度の特徴として外国人留学生を対象とし、返還の必要がなく、2年間にわたり給付されます。また、他の奨学団体から給付を受けている場合（応募している場合）でも応募できます。

給付年額	600,000円
給付期間	2年間
対 象	博士前期課程1年次の外国人留学生で経済的理由により、就学が困難である者 将来、農業並びに土木の研究又は事業に携わる見込みのある者
給付人数	1人（隔年で募集）

13 国際交流

大学間協定 令和7年7月23日現在

大 学 名	国・地域名	大 学 名	国・地域名
江蘇大学	中国	メジョー大学	タイ
廣西大学	中国	IPB大学	インドネシア
江南大学	中国	スリウィジャヤ大学	インドネシア
南京工業大学	中国	パジャジャラン大学	インドネシア
上海海洋大学	中国	インドネシア国立研究革新庁(BRIN)	インドネシア
延辺大学	中国	アイルランガ大学	インドネシア
安徽農業大学	中国	ブトラマレーシア大学	マレーシア
吉林農業大学	中国	マレーシアトレンガヌ大学	マレーシア
南京農業大学	中国	カントー大学	ベトナム
南京林業大学	中国	バングラデシュ農業大学	バングラデシュ
上海外国語大学	中国	フィジー国立大学	フィジー
釜慶大学校	韓国	南太平洋大学	フィジー
国立台湾海洋大学	台湾	国立ラ・モリーナ農業大学	ペルー
カセサート大学	タイ	セントラルルソン大学	フィリピン
スラナリー工科大学	タイ	ヌエヴァ・ヴィスカヤ大学	フィリピン
タマサート大学	タイ		他

学部間協定

大 学 名	国・地域名
ムラワルマン大学	インドネシア
メリーランド大学イースタンショア校	アメリカ

15 学術刊行物

刊行物名	発行部数	発行回数
三重大学大学院生物資源学研究科紀要	400	年1回
三重大学フィールド研究・技術年報	200	年1回

※令和7年度よりオンライン版のみ発刊予定

16 研究経費

科学研究費助成事業（科研費）採択状況（単位：千円）

令和7年3月31日現在

種 目	令和2年度(2020)		令和3年度(2021)		令和4年度(2022)		令和5年度(2023)		令和6年度(2024)	
	件数	交付金額	件数	交付金額	件数	交付金額	件数	交付金額	件数	交付金額
学術変革領域研究(A)							1	2,900	1	2,800
新学術領域研究	2	28,500	2	40,100	1	23,400	1	17,600	0	0
基盤研究(A)	1	9,200	1	6,600	1	10,100	0	0	0	0
基盤研究(B)	11	45,200	11	42,000	9	32,300	9	37,400	9	34,100
基盤研究(C)	32	36,000	31	31,400	31	29,400	32	37,300	32	33,700
挑戦的研究(開拓)	1	4,400	0	0	0	0	0	0	0	0
挑戦的研究(萌芽) (挑戦的萌芽研究を含む)	4	5,100	2	3,900	2	4,300	1	1,200	2	4,400
若手研究(A)	1	1,100	0	0	0	0	0	0	0	0
若手研究 (若手研究(B)を含む)	5	4,600	9	11,000	5	4,300	7	7,400	7	10,300
研究活動スタート支援			0	0	0	0	0	0	0	0
研究成果公開促進費			0	0	0	0	0	0	1	900
特別研究員奨励費	2	1,900	0	0	2	1,700	2	1,500	1	1,500
奨励研究							1	330	0	0
合 計	59	136,000	56	135,000	51	105,500	54	105,630	53	87,700

共同研究受入状況(単位:千円)

令和7年3月31日現在

	令和2年度(2020)	令和3年度(2021)	令和4年度(2022)	令和5年度(2023)	令和6年度(2024)
件数	98	101	104	99	99
金額	63,170	59,185	79,532	61,701	60,077

受託研究受入状況(単位:千円)

令和7年3月31日現在

	令和2年度(2020)	令和3年度(2021)	令和4年度(2022)	令和5年度(2023)	令和6年度(2024)
件数	48	49	37	40	44
金額	126,083	228,194	236,643	252,870	236,952

寄附金受入状況(単位:千円)

令和7年3月31日現在

	令和2年度(2020)	令和3年度(2021)	令和4年度(2022)	令和5年度(2023)	令和6年度(2024)
件数	56	53	48	50	51
金額	27,384	32,791	33,625	32,868	38,498

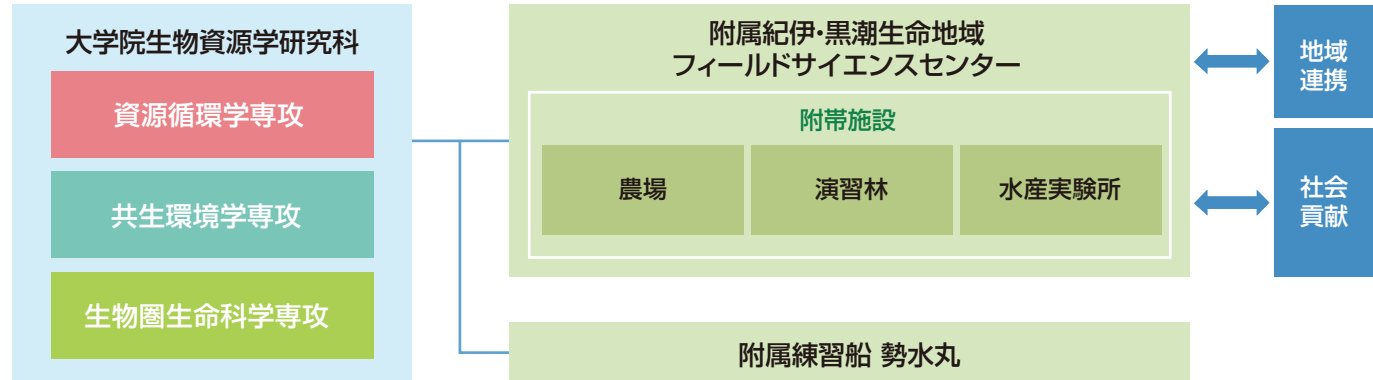
14 連携協定

協定先	締結日
公益財団法人名古屋みなと振興財団名古屋港水族館	平成27年12月17日
独立行政法人水資源機構中部支社	平成28年5月30日
農林水産省東海農政局農村振興部	平成28年10月18日
株式会社鳥羽水族館	平成30年4月20日
三重県農林水産部「みえ森林・林業アカデミー」	平成30年12月11日
一般社団法人農業土木事業協会	平成31年3月19日
三重県農林水産部「みえ生物多様性パートナーシップ協定」 鳥類繁殖場の保全に関する協定	令和2年6月10日
ミキモトグループ	令和2年11月9日
三重県における海洋DX研究開発・導入の促進に係る産学官連携協定	令和3年3月16日
海のシリコンバレー 「伊勢志摩海洋教育研究アライアンス」	令和4年10月1日
三重県農林水産部「みえ生物多様性パートナーシップ協定」 カワバタモロコの保護に関する協定	令和6年4月1日
八重山漁業協同組合「スマート水産業普及に関する協定」	令和6年7月1日

17 附属紀伊・黒潮生命地域 フィールドサイエンスセンター

紀伊半島全域と黒潮流域に広がる山から海までの生態系を対象に、人間と自然との共存を目指す総合科学の実習教育・研究施設。

■ フィールドサイエンスセンターの位置付け



■ 附帯施設農場

本学の北西約9.5kmに位置し、水田、畠、果樹園、ガラス室、茶園、畜舎、農産加工室などからなる総合農場で、35haの面積を占める。令和7年度6月には省エネ型植物工場・推進センターが新たに整備され、再生可能エネルギーの活用や施設栽培の研究など新たな教育研究への充実がなされた。学部学生の実習教育の他に、共通教育のセミナー、所属教員及びその他の研究科教員と専攻学生のフィールド研究の場としても利用されている。



農場全景

■ 附帯施設演習林

本学から南西方向に約60km離れ、雲出川の最上流部に位置する。総面積457haの約6割を占める天然生林は、紀伊半島山地帯における数少ない自然植生を維持している点で貴重なものであり、そこには数多くの動植物種が生息している。林内にある管理・宿泊施設を基点として、森林に関する研究・教育が幅広く行われている。



演習林管理・学生宿泊施設

■ 附帯施設水産実験所

豊かな生態系を有する伊勢湾口部に位置する水産実験所は、プランクトン、海藻類、無脊椎動物、魚類等多様な海洋生物を用いた学生実習や、教員・大学院生の研究に利用されている。また、海洋生物の資源生態学的研究や、水産に関する情報科学、ブルーカーボンや海洋教育に関する研究等が行われ、実験所独自の活動も活発に進められている。



水産実験所全景

18 附属練習船勢水丸

研究科・学部の洋上における教育及び研究を行うための附属施設であって、学部学生の実習並びに教員・学生の調査研究に利用される。平成21年1月、新たな観測設備、推進システムを搭載した代船として建造され、運航している。



船 名	勢水丸	主推進電動機	出力1000kW
総 ト ン 数	318トン	航 海 速 力	10.0ノット
国際総トン数	491トン	航 続 距 離	3500海里
長さ(全長)	50.90m	定 員	44名
幅 (型)	8.60m	建造年月日	平成21年1月30日
深 さ (型)	3.75m	建 造 所	三菱重工業(株) 下関造船所

19 研究基盤推進機構 鯨類研究センター

平成28年12月、鯨類の繁殖や生態などの研究を行い、研究者間の相互交流や成果を啓発する活動を行う研究組織として生物資源学研究科附属鯨類研究センターとして設置され、令和6年4月全学化された。総合研究棟Ⅱの実験室を中心に、基礎から応用まで、様々な手法で鯨類資源の持続可能性を高めるための活動を行っている。



20 三翠会館

昭和11年8月建築された上浜地区に残る一番古い建物である。三重高等農林学校の卒業生から寄付を受け、非常勤講師の宿泊施設として利用されていた。平成14年2月に登録有形文化財に指定され、また、同年3月に改修を行い、現在は会議や教職員の福利厚生施設として利用されている。

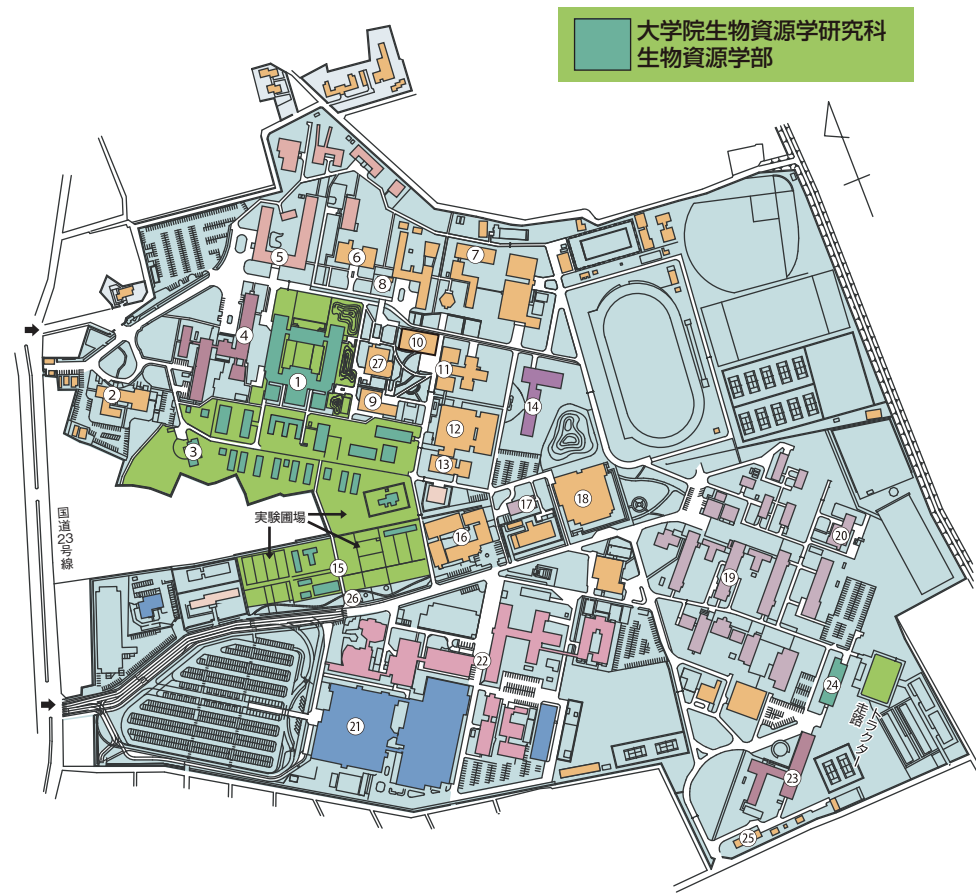


21 不渴の井戸

この井戸は、本研究科の前身である三重高等農林学校が現在地に設置された際に低湿地、塩害地であった土地を改良するために教官と学生が協力して大正13年に築いたものであり、現在も実験圃場への灌漑設備として活用されている。平成28年度には、公益財団法人土木学会が行う選奨土木遺産に選出された。



22 学内配置図



1. 生物資源学部長校舎
2. 事務局
3. 三翠会館
4. 総合研究棟Ⅱ
(教育推進・学生支援機構、国際戦略機構、保健管理センター等)
5. 教育学部校舎
6. 教育学部附属教職支援センター
7. 共通教育校舎(全学共通教育センター)
8. 数理・データサイエンス館(CeMDS)
9. 翠陵会館
10. 地域共創プラザ(カフェテリア)
11. 環境・情報科学館
12. 附属図書館
13. 情報基盤センター
14. 人文学部校舎
15. 生物資源学部実験水槽群
16. 地域イノベーション学研究科
地域イノベーション研究開発拠点
17. オープンイノベーション施設
18. 三翠ホール(講堂)
19. 工学部校舎
20. 卓越型研究施設
21. 医学部附属病院
22. 医学部校舎
23. 総合研究棟Ⅰ
24. 水産製造実験工場
25. レーモンドホール
26. 不渴の井戸
27. クラブハウス

23 土地・建物

区 分	土 地	建 物
生物資源学部	〈528,340㎡〉	31,924㎡
附属紀伊・黒潮生命地域フィールドサイエンスセンター		
附帯施設農場	353,179㎡	8,868㎡
附帯施設演習林	4,569,562㎡	1,421㎡ (延)
附帯施設水産実験所	1,299㎡	623㎡ (延)
附属練習船基地	1,356㎡	574㎡

〈 〉：上浜地区の面積

24 所在地

名 称	郵便番号	住 所	電話番号	FAX番号
大学院生物資源学研究科 生物資源学部	514-8507	津市栗真町屋町1577	059-231-9626	059-231-9634
附属紀伊・黒潮生命地域 フィールドサイエンスセンター	514-2221	津市高野尾町2072-2	059-230-0044	059-230-1463
附帯施設農場	514-2221	津市高野尾町2072-2	059-230-0044	059-230-1463
附帯施設演習林	515-3532	津市美杉町川上2735	059-274-0135	059-274-1171
附帯施設水産実験所	517-0015	鳥羽市小浜町641-9	0599-37-7310	0599-37-7311
附属練習船勢水丸		(松阪港停泊時) (船舶電話)	090-7605-4347 090-3022-8767	03-6888-6079
附属練習船基地	515-0001	松阪市大口町1819-18	0598-51-0710	—
研究基盤推進機構類研究センター	514-8507	津市栗真町屋町1577	059-231-6979	—

25 アクセス

■ 本学部への交通案内

近鉄電車「急行」で

名古屋より	近鉄名古屋駅	約60分	江戸橋駅	徒歩約15分
京都・大阪より	伊勢中川駅	約15分	江戸橋駅	

近鉄電車「特急」で

名古屋より	近鉄名古屋駅	約50分	津駅	バス約15分
大阪より	近鉄大阪難波駅	約90分	津駅	タクシー約10分
京都より	京 都 駅	約110分	津駅	

- ① 津駅東口バスのりばから三重交通バスで約15分
「4番」のりばより「白塚駅」、「棕本」、「豊が丘」、「サイエンスシティ」、「三重病院」、「東豊野」、「高田高校前」行きに乗車、「三重大学」で下車
- ② 津駅前からタクシーで約10分

- 近鉄江戸橋駅(三重大学前)から徒歩で約15分

- 中部国際空港(セントレア)から津エアポートラインで「津なぎさまち」へ45分

- ① 「津なぎさまち」から三重交通バスで「津駅前」まで約15分
「津駅前」で乗り換え「三重大学前」まで約15分
- ② 「津なぎさまち」からタクシーで約15分

